

【七・八月】お題「夏のもの」「海」「体育祭」

月間賞

気づいたら氷が溶けて薄まったあの麦茶さえも夏の思い出

三―二 佐々木 陽菜

第二席

ご先祖にあいさつをしに墓参り一年越しの思い出めた手

一―一 森谷 心咲

第三席

ダラダラと何となく迎えた最終日終わらぬ課題と残る後悔
風そよぐ涼しい音を轟かせえんがわ腰かけ過ごすひととき

一―二 及川 菜月
三―三 千葉 果澄

優良賞

海の青ラムネ瓶の青空の青 青が引き立てひまわりは咲く
波の音テトラポットに打ちつける聞こえる音がその音だけ
誕生日変わりたいのに変わらない話せてるのにこんなに遠く

三―三 松田 真於
三―三 鈴木 隆徳
二―三 古内 さくら

佳作

甲子園東北初の優勝金属の音鳴り響いてる
汗流し削る氷の音を聞き今年も来たかとうちわをあおぐ
夏の夜コンビニに行きアイス買うお風呂あがりにつめたい一口
パチパチと静かな夜に音響く消えたら終わり線香花火
暗闇に咲く夏だけの花々はあたりの心を照らしてくれる
細長く白く漂う蚊取り線香灰になりつつ役目を果たす
扇風機喉を震わせ宇宙人アイスと一緒に夏のひととき

一―一 長谷川 亜希
三―三 氏家 夢叶
一―二 大山 大翔
一―一 大谷 来夢
一―一 佐々木 美羽
二―二 中鉢 結貴
二―二 大道寺 翔吾

入選

花火みる君の瞳に反射してふいにカメラをかまえる僕
体育祭順位をかけて競い合い争う姿にカメラを向けて
静かな夜線香花火を見つめてる火が落ちてしまえば夏終わる
散歩道草木に混じりて色をつけ一際輝く花菖蒲
風鈴が切なく揺れる夏の暮れ火照った体を優しく包む
夏がきてスイカのうまい暑さなりキーンと冷やして頬張りたいた
体育館黄色い歓声飛び交ってる心臓の音鳴り止まない
青々と水平線が輝いてはつきり見える私の道も
揺れる波右だ前だと音を聞く暗闇の中果実目指す
水平線映し出す斜陽煌めいて近く夏夜に心躍らせ
列車で行く窓に映る青い空到着したら光る海面

三―三 猪股 響生
三―一 今野 翔太
一―二 牧野 美結
三―三 熊谷 快夢
三―三 熊谷 快夢
三―一 五十嵐 妃莉
一―一 長谷川 亜希
三―一 小嶋 美香
二―一 高嶋 明衣里
二―一 谷代 乃々
二―二 佐々木 蒼太